奈良・藤原宮跡

1 所在地　奈良県橿原市飛騨町
2 調査期間　第六〇―二〇次　一九九〇年（平2）三月～四月
3 発掘機関　奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部
4 調査担当者　代表　牛川喜幸
5 遺跡の種類　宮殿・官衙跡
6 遺跡の年代　七世紀末～八世紀初頭
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査は公共下排水路整備に伴う事前調査として実施したもので、調査地は、藤原宮の南面大垣に開く三つの門のうち、西門の推定位置に当る。調査面積は二五〇㎡である。

調査の結果、検出した遺構は、藤原宮の南面内濠ＳＤ五〇二のみで、推定位置に南面西門跡は検出できなかった。西門の推定位置では遺構の検出面が古墳時代の包含層であることから、門の基壇は既に削平されてしまったものと考えられる。内濠ＳＤ五〇二は幅約二・五ｍ、深さ〇・九ｍほどの規模で、堆積層は上下二層に分けられる。上層には大量の瓦が、また下層には木屑が詰まっていた。

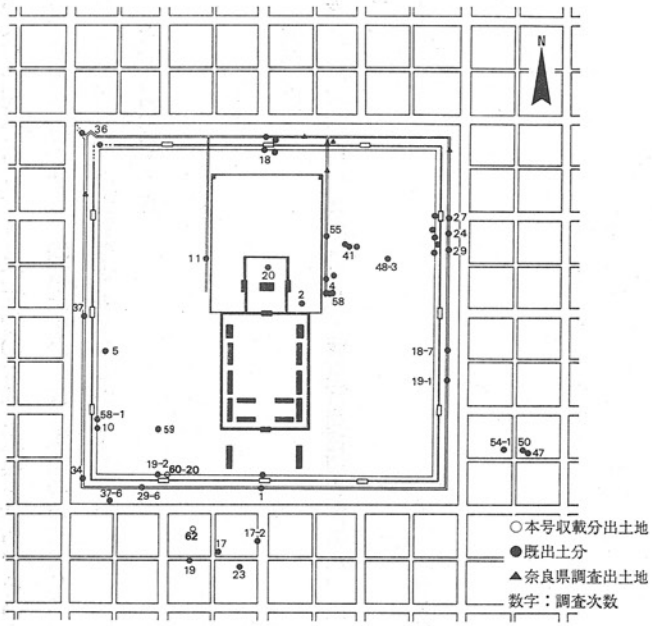
木簡は、南面内濠ＳＤ五〇二の上下二層ある堆積層のうち下層の木屑の層から二〇点が出土したが、全て削屑で、しかもそのほとんどが細片で、十分判読できない。

8 木簡の釈文・内容

(1) 右□　160

(2) □女年　091

（橋本義則）



藤原宮・京跡木簡出土地点略図